

# 新病院建設事業 完了報告書




島田市立総合医療センター





 島田市立総合医療センター

 島田市立総合医療センター  
Shimada general medical center



# 医療を中心に考える

新病院建設工事は、令和5年3月17日に竣工を迎え、令和4年度をもって建設事業が完了しました。

新病院の建物には、医師や看護師など様々な病院スタッフの経験が活かされています。患者さんの利便性、効率的な治療スペースの確保、医療スタッフの働き易さなど、医療人としての観点が詰まっています。

「医療を中心に考える」、そのことが質の高い、心のこもった医療の実践へとつながると考えます。患者さんにとって満足のいく、信頼のできる病院をこれからも目指していきます。





# 救急患者に迅速に対応できる病院

屋上にヘリポートを設置。さらに救急専用大型エレベーターで救急外来、手術室、重症室と直結しました。部門間に救急ホットラインを構築し、市民を守る救急医療の強化を図りました。



屋上ヘリポート





## 患者にやさしい病院

1階、2階の外来・検査部門は、センターストリートから見渡せるように配置しています。ユニバーサルデザインにもとづき、患者にやさしく、わかりやすい病院を目指しました。



# 職員にとって働きがいのある病院

機能的なスタッフ専用動線を構築するとともに、全スタッフ共有の場として、休憩・打ち合わせなどに利用できるスタッフコモンズを設置。多職種交流を促進します。



スタッフコモンズ



# 利便性が向上した病院

広い駐車スペースと、県道交差点と接続された広いロータリーを整備。正面玄関までの安全な動線を確保しました。また、建物近くに屋根付きの「子育て支援駐車場」と「車いす駐車場」を整備。利便性の高い外構を実現しました。



北東側上空からの全景



## 災害に対応した病院

軟弱地盤対策として、支持杭工法を採用。170本の杭と111基の免震装置、さらに本館は、鉄骨造により軽量化を図り、地震に強い構造を実現しました。災害拠点病院として災害時における市民の安全を守ります。





## 環境とライフサイクルコストに 配慮した病院

自然採光、自然換気を積極的に行うことで環境負荷を低減。また、節水型の衛生機器やLED、人感センサーなどを設けることで省エネルギー化を図りました。



フレキシブルシャフト

## 将来変化を見据えた フレキシブルな病院

最上階まで吹き抜け空間のフレキシブルシャフトを3カ所に配置。各病棟に将来エレベーターの設置が可能となり、他用途への変更に対応できます。



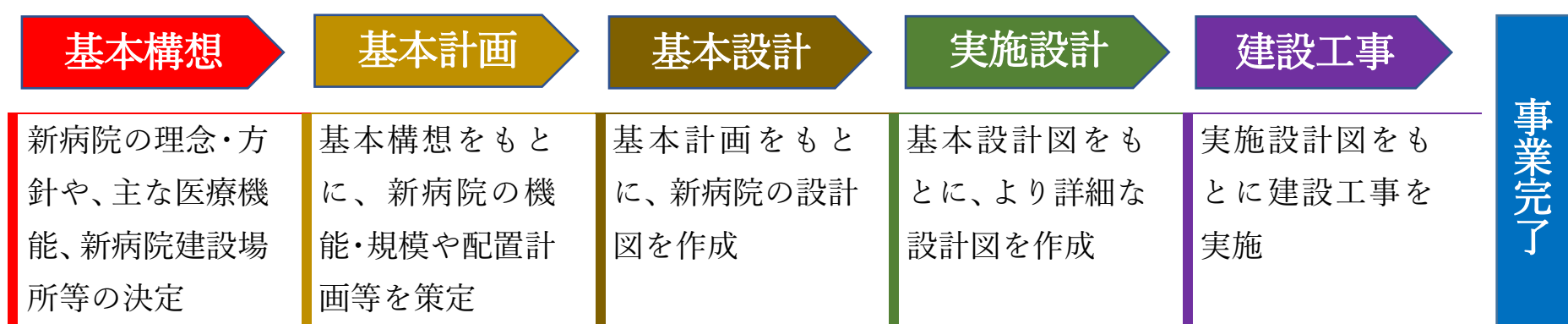
## 事業化の経緯

旧病院の建物は、昭和 53 年 12 月に竣工し、翌年から診療を開始しました。その後、東館の増築や病棟改造などを行い、変化する医療情勢に対応してきましたが、長い年月の中、施設の狭あい化、動線の複雑化、バリアフリー化への対応の遅れ、患者利便性の低下、施設の老朽化など、高度な医療を担うことを阻害する要因が生じてきました。加えて、静岡県が策定した耐震性能判定基準において「耐震性能がやや劣る建物」の評価を受けていました。

こうした状況を踏まえ、地域の中核を担う急性期病院として、将来にわたり市民の命と健康を守り、安全で安心な医療を安定的かつ継続的に提供していく新病院を再整備することにしました。



## 事業の流れ



### 基本構想段階（平成 26 年 2 月～7 月）

庁内に新市立島田市民病院建設基本構想策定委員会を設置し、企画部政策推進課を事務局として基本構想を策定しました。策定支援業務は(株)システム環境研究所に委託。

基本構想では、医療を取り巻く社会経済環境、病院の課題などを分析するとともに、新病院の病床数を 500 床程度（一般 420 床、回復期 40 床、療養 40 床）、建設場所を稼働中の病院と同一敷地内での建て替え、概算事業費を約 250 億円とする内容が示されました。

### 基本計画段階（平成 26 年 11 月～平成 27 年 10 月）

院内に新病院建設計画班（班員 40 名、班長：青山副院長）を設置。庁内に新市立島田市民病院建設基本計画策定委員会（委員 16～18 名、委員長：渡辺～高木副市長）を設置。平成 26 年度は病院事務部経営企画課、平成 27 年度は病院建設推進課を事務局として基本計画を策定しました。策定支援業務はプロポーザルにより(株)病院システムに委託。

基本計画では、課題や条件整理をするとともに、病床数を 445 床（一般 405（床感染・結核含む）、回復期 40 床）、延床面積を 35,600 m<sup>2</sup>程度、高さを 7～8 階建て、概算事業費を 247 億円とする内容が示されました。



## 基本設計段階（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

院内に新病院プロジェクト会議（委員 47 名、委員長：青山副院長）を設置。庁内に新病院建設委員会（委員 20～17 名、委員長：高木～牛尾副市長）を設置。病院事務部病院建設推進課を事務局として基本設計を作成しました。

設計業務は公開プロポーザルにより(株)内藤建築事務所に委託。更にコンストラクション・マネジメント（以下、「CM」という。）業務をプロポーザルにより日建設計 CM(株)に委託。また、新病院運営計画等策定支援業務を(株)病院システムに委託。

基本設計では、48 部門に延べ 195 回のヒアリングを実施。病棟・階構成、ブロックプラン、平面図・配置図・断面計画図、改修工事設計図などを取りまとめ、概算工事費を積算※しました。

また、新病院建設委員会では、周辺整備事業の検討をするとともに、建設工事の発注方式を検討。制限付き一般競争入札（VE 提案付技術提案型総合評価落札方式※）とすることとし、併せて、発注パッケージ※は、本体・改修・解体・外構の各工事及び建築・電気・機械の各工種を一括発注とすることにしました。

### ▶概算工事費の積算

設計の進捗に合わせて段階的に計 4 回の概算工事費を算出し、その都度バリューエンジニアリング（VE）、コストダウン（CD）会議を実施。無駄をなくしコストを徹底的に下げました。また、基本設計の最終段階では、本来、実施設計時に行う数量積み上げによる精度の高い積算を行うとともに、市場の状況や建設業界の動向に精通した CM による検証のもと、信頼性の高い概算工事費を算出しました。

### ▶VE 提案付技術提案型総合評価落札方式

入札参加者からテーマに沿った技術提案を募り、審査対象として入札価格とともに評価する方式を採用しました。価格面での公正な競争と様々な施工者提案が期待できます。併せて VE 提案を受け付けることにより、より安い入札価格が期待できます。

### ▶発注パッケージ

新病院建設工事は、本体工事、改修工事、解体工事、外構工事などに分かれます。また、工種としては建築、電気、機械があります。各工事及び各工種をどのようにパッケージとして組み合わせ発注するかを検討し、次の理由から全ての工事と工種を一括発注することにしました。

- ・入札参加者の参加意欲が増す。
- ・病院は、外来、検査、手術、病棟など様々な専門部門から構成された建物であり、一定の品質を確保する必要がある。
- ・着工から竣工・グランドオープンまで一括した安全管理が可能となる。
- ・一者が責任を持って品質管理を行うため、一定レベルの品質管理が期待できる。また施工管理、品質管理を一者が行うため、責任の所在が明確である。
- ・工事契約時に竣工・開院・グランドオープンまでのスケジュールを構築することが可能であり、効率的な工程管理により工期短縮が図られる。



## 実施設計・施工者選定段階（平成29年4月～平成30年3月）

9月の入札公告を念頭に、基本設計段階から詳細設計に着手し、工事発注図書を半年で作成しました。また、新病院建設委員会（委員17名、委員長：牛尾副市長）では、設計に関する変更事項の協議、建設工事の入札公告の検討などを行いました。

一方、市・病院職員、有識者を構成員とする新病院建設工事施工者選定審査委員会（委員6名、委員長：牛尾副市長）を設置。施工者選定の評価基準、要綱、発注仕様書等の検討を行うとともに、入札参加者の審査を行い、(株)竹中工務店が落札しました。なお、地元企業の活用に関して、落札者から提案のあった地元調達率※は、契約金額の30.5%が示されました。

### ▶地元調達率

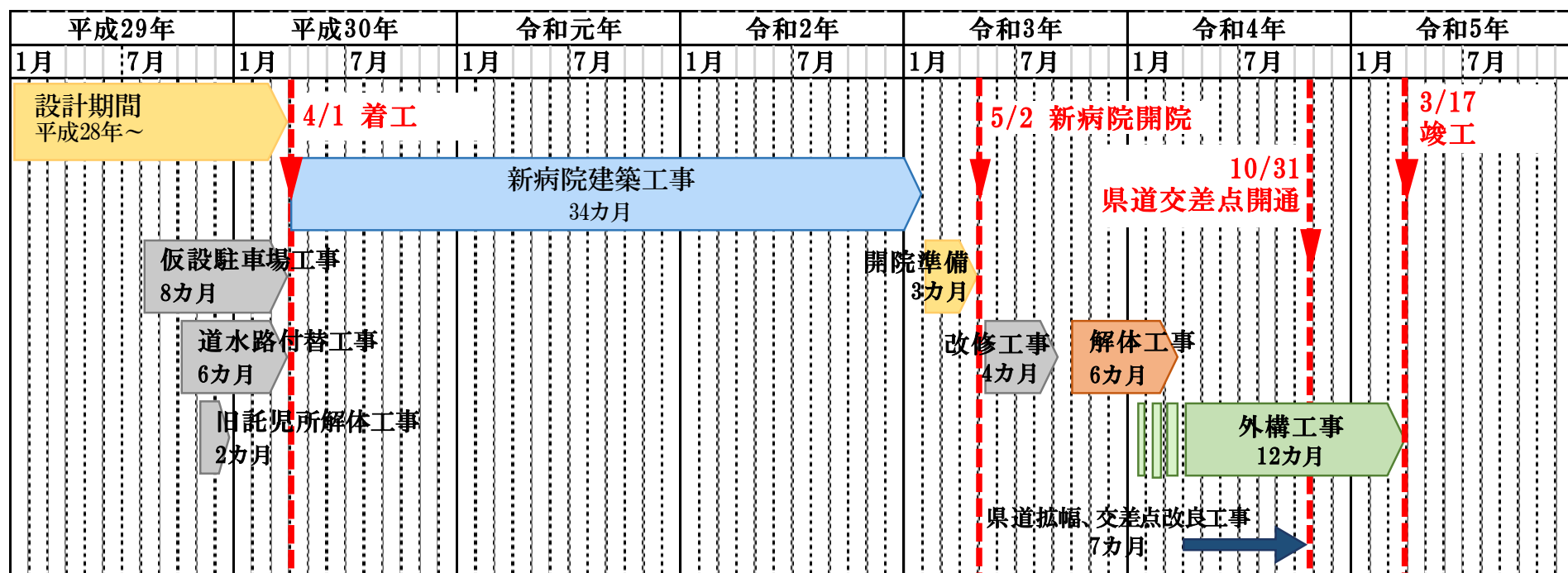
地域経済の活性化と地元産業の保護育成に対し最大限の効果を発揮するよう、施工者選定における評価項目に地元活用（地元調達率）を加え、市内業者の活用を金額ベースで何パーセント見込むのか、入札参加者から提案を求めました。

これを評価項目に加えることにより、大手ゼネコンが落札したとしても、地元企業が協力業者として一定の割合で工事に係ることとなり、経済効果を見込むことができました。最終的には市内協力業者と元請け業者との間で約50億円（税抜）、当初契約ベースの33.5%の契約が達成されました。

## 工事段階（平成30年4月～令和5年3月）

新市立島田市民病院建設工事を竹中工務店が請け負うこととなり、平成30年4月1日に着工しました。事前工事を含めた竣工までのスケジュールは次のとおりです。

### ▶工事スケジュール



## 事前工事（平成29年8月～令和30年3月）

新病院は、旧病院東側駐車場付近に建設するため、使用できなくなる約270台分の仮設駐車場を用意する必要がありました。このため、中央公園駐車場を職員用に100台借りるとともに、既存北東駐車場の北側に170台分の仮設駐車場を整備しました。

このほか、建設地にあった法定外道路と用悪水路の付替工事、旧託児所の解体工事を行い、建設工事に着手できるよう準備を進めました。



## 本体工事（平成30年4月～令和3年1月）

安全を第一に、病院の診療を停止させないよう工事を進めました。

まずは新浄化槽棟を建設し、新旧浄化槽の機能切替後、旧浄化槽を解体しました。

その後、支持杭を打設、基礎工事、躯体工事、内装工事を経て、令和3年1月に本館・リニアック棟が完成しました。また、工事中も部門別ヒアリング※を行い、可能な限りスタッフ要望を反映させました。

本館完成後は、開院準備※を進め、令和3年5月2日（日）、「市立島田市民病院」の名称※を改め、「島田市立総合医療センター」として開院しました。



新病院北側。右は旧病院。

### ▶部門別ヒアリング

院内48部門を対象に、設計図作成のためのヒアリングを実施しました。基本設計段階では195回、実施設計段階では58回行いました。

また、工事段階においても、施工図作成のための総合図ヒアリングや医療機器ヒアリングなどを実施し、部門別ヒアリングの合計は578回に上ります。

### ▶新病院開院準備～開院

令和3年

3月20日（土）・4月10日（土） 開院リハーサル

4月17日（土） 完成記念式典

4月24日（土）・25日（日） 事前移転

4月29日（水・祝）～ 本移転開始、救急外来停止

5月2日（日） 入院患者移送、新病院入院診療開始（開院）、救急外来再開、売店オープン

5月5日（水・祝） 本移転完了

5月6日（木） 新病院外来診療開始、レストラン・カフェオープン

5月8日（土）・9日（日） 事後移転

### ▶新病院名称・ロゴマーク

新病院名称を公募し、令和元年8月、応募件数219件、名称数152名称の中から「島田市立総合医療センター」に決定しました。また、同年9月、(株)内藤建築事務所から提案いただいた中から新病院ロゴマークを決定しました。

当該名称の応募者の中から抽選で竹中紗帆さん（18歳学生・高砂町在住（当時））と、ロゴをデザインいただいた中山大輔さん（(株)内藤建築事務所）に記念品を贈呈しました。



## 改修工事（令和3年5月～9月）

5月14日から旧救急センター棟の1階を人工透析センターへ、2階を感染症病棟へ改修する工事に着手しました。人工透析センターでは、旧病院20床だったベッドを36床まで増床できるよう改修しました。感染症病棟では、新型コロナウイルス感染拡大を契機に、患者の動線や見守りに係る設計を見直し、対応強化を図りました。このほか、発熱外来診察室や研修医室などを新たに設けました。

また、旧健診センターを別館として改修し、設計変更により本館に整備できなくなった研修ルームや会議室を整備しました。このほか、旧病院内にあった休日急患診療所を別館1階に開設するための工事を健康づくり課が行い、9月19日に開院しています。



人工透析センター。

## 解体工事（令和3年10月～令和4年3月）

9月の人工透析センターの稼働をもって、全ての機能が新病院へ移転されたため、10月から本格的に解体工事に着手しました。

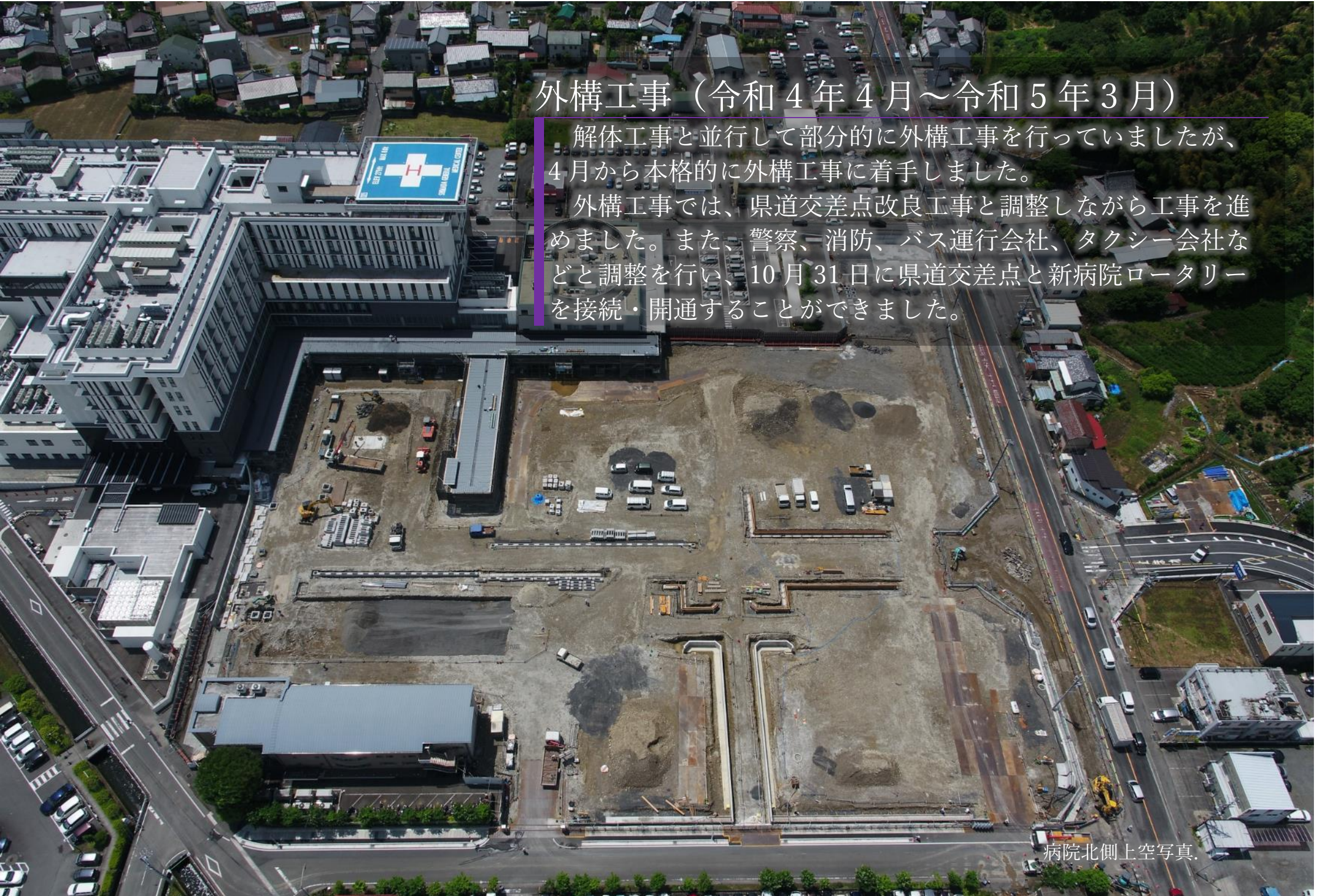
新病院と旧病院は非常に近接しており、騒音・振動などの解体工事の影響を低減させ、来院者の安全が十分確保できるように、防音防護壁で旧病院を囲み、必要な箇所には防護屋根を設置しました。

また、直上付近で作業がある場合は、必ず直下の通行を止めたり、通路変更を行い、細心の注意を払って作業を進めました。優れた工程管理と現場管理、熟練工の解体技術により、大規模な解体工事を安全かつ迅速に終わることができました。



旧病院北側。





## 外構工事（令和4年4月～令和5年3月）

解体工事と並行して部分的に外構工事を行っていましたが、4月から本格的に外構工事に着手しました。

外構工事では、県道交差点改良工事と調整しながら工事を進めました。また、警察、消防、バス運行会社、タクシー会社などと調整を行い、10月31日に県道交差点と新病院ロータリーを接続・開通することができました。

病院北側上空写真

# 次世代につなぐ新しい病院 令和5年3月17日竣工

### 事業評価

旧病院の課題	工事の成果
耐震性能がやや劣る建物（ランクⅡ）	耐震性能が優れている建物（ランクⅠa） 本館免震化
施設の狭あい化 動線の複雑化 バリアフリー化の遅れ 患者利便性の低下 施設・設備の老朽化	延床面積の増加 患者と職員の動線分離 ユニバーサルデザインの導入 患者呼出システム導入、利便性の高い外構 施設・設備・機器・什器の更新

事業の課題	事業の成果
ローコスト・高品質の病院建設	計画時から▲35.4億円の事業費縮減（見込み）
スケジュールの遵守	令和3年春の開院実現
地元活用	地元調達率 33.5%（4,995,884千円）

### その他の実績

総務省「公立病院経営強化ガイドライン」に整備費抑制手法の参考事例として掲載  
国土交通省「CM方式活用事例集」に掲載



# 外来・検査部門 1～2階



エントランスホール  
SHIMADA プラザ



放射線検査待合



診察待合



計算・会計待合



病棟  
4～7階



個室病室



4床病室



コミュニケーションカウンター



病棟プレイルーム



病棟ラウンジ



# 手術室・HCU

## 4階



手術室



HCU (ハイケアユニット)



リハビリテーション  
6階



化学療法室  
2階



カフェ  
1階



レストラン  
2階



売店  
2階





# 事業費と財源

## 概算事業費

(単位:億円)

事業費区分	基本計画 (H27.10)	最終 (見込み)	増減	費用説明
土地関連費	1.1	1.1	0	構内道水路付替、地質調査、測量等
設計・監理費	4.3	4.1	▲0.2	基本設計、実施設計、工事監理
建設工事費	199.0	165.0	▲34.0	新病院建設、カルテ庫整備、仮設駐車場整備等
設備整備費	40.8	37.6	▲3.2	医療機器、医療情報、備品等
その他経費	1.8	3.8	2.0	CM、運用支援、移転等
計	247.0	211.6	▲35.4	

## 財源内訳

(単位:億円)

財源区分	基本計画 (H27.10)	最終 (見込み)	増減	区分説明
企業債	169.0	148.8	▲20.2	病院事業会計で借入れる地方債。起債対象額の3/4
一般会計繰出金 (合併特例債分)	55.6	49.6	▲6.0	市が借入れる合併特例債を財源として一般会計から繰出。起債対象額の1/4
一般会計繰出金 (現金)	11.2	6.6	▲4.6	起債対象外経費の1/2を一般会計から繰出
病院事業会計 (現金)	11.2	6.6	▲4.6	起債対象外経費の1/2を病院事業会計で負担
計	247.0	211.6	▲35.4	

## 新病院建設工事費

(単位:千円)

工事区分	当初	最終 (見込み)	増減	主な増減理由
インフラ	22,607	29,553	6,946	地中障害撤去等
浄化槽	681,685	680,051	▲1,634	VEバリュエーションエンジニアリング(仕様変更)等
浄化槽解体	108,035	70,238	▲37,797	VEバリュエーションエンジニアリング(基礎躯体一部残置)等
新築	13,692,017	13,878,429	186,412	HCU追加、現場要望変更等
透析センター改修	327,326	357,499	30,173	感染症病棟見直し等
別館改修	15,640	33,173	17,533	老朽設備交換等
解体	574,550	590,334	15,784	アスベスト、蓄電池処分等
外構	670,140	749,886	79,746	別館シェルター追加、擁壁変更等
計	16,092,000	16,389,163	297,163	当初契約額に対して1.85%増

## 事業のポイント

※【】内は関係業者(BS:病院システム、NT:内藤建築事務所、NCM:日建設計CM、TK:竹中工務店、BB:ブルームビルド)

### 1. タイミング

- ・業界におけるオリンピック需要の落ち着きなどの情勢の見極め
- ・建て替えへの強い意志と機を捉えた決断
- 結果的に後の資材不足と職人不足を回避(一括発注に伴う早い時期での契約、大手ゼネコンの調達力と職人の手配力)

### 2. 段取り

- ・国・県・関係機関・住民からの理解・協力を得るための説明・準備
- ・建設業界からの注目度を増す取り組み(国交省モデル事業採択、一括発注パッケージ、精度の高い設計図書、入札参加者への積極的な情報提供と十分な見積り期間の確保、入札参加要件の緩和等)【NCM、NT】
- ・道水路付け替え工事や仮設駐車場整備などの事前工事に関する調整
- ・県道交差点改良、耐震性配水管整備、防火水槽整備などの周辺整備事業との調整【TK】
- ・一括発注のメリットを活かした一連的な工程調整【TK】
- ・開院に向けた全職員の準備(運用マニュアル作成、開院リハーサル実施、早期の移転計画作成)【BS、BB】

### 3. コンセプト(ローコスト、高品質)

- ・コンセプトを共有した上での徹底した部門別ヒアリングの実施(578回)【NT、BS、NCM、TK】
- ・現場要望に対する必要性の線引き【NT、BS、NCM、TK】
- ・施設・設備の標準仕様と当院のグレード設定【NCM】
- ・整備手法(発注方式)の妥協のない追求(設計施工分離発注、全工事一括発注)【NCM、NT】
- ・VE提案付技術提案型総合評価落札方式の採用に伴う価格の競争、施工品質の確保、地元企業の活用
- ・精度の高い設計と積算、技術提案・VE・設計変更の妥当性判断と履行確認、一括発注に伴う一体的な施工・品質管理、施工品質に対する徹底した立ち合い検査、品質確認と施工者への適切な指摘・指示【NT、NCM】
- ・国・県・有識者からの当院コンセプトへの理解と適切な助言
- ・施工者・設計者・CM・コンサルタントとの会議体・事業実施体制の確立(設計段階におけるVE・CD検討会議、工事段階における定例会、設計変更調整会議、技術提案履行確認会等)及び、それら関係者との価値観の共有と信頼関係



# DATA

## (1)構造及び床面積

新病院 (延床 39,508.41 m <sup>2</sup> )	
本館	: 鉄骨造免震構造 8F (34,415.12 m <sup>2</sup> )
リニアック棟	: 鉄筋コンクリート造耐震構造 1F (562.40 m <sup>2</sup> )
浄化槽棟	: 鉄筋コンクリート造耐震構造 B1/1F (708.17 m <sup>2</sup> )
人工透析センター	: 鉄骨造耐震構造 3F (1,936.76 m <sup>2</sup> ) ※旧救急センター改修
別館	: 鉄骨造耐震構造 3F (1,218.74 m <sup>2</sup> ) ※旧健診センター改修
附属設備	: 駐車場屋根等 (667.22 m <sup>2</sup> )
(参考)	
旧病院 (延床 34,999.29 m <sup>2</sup> )	
本館・東館	: 鉄筋コンクリート造耐震構造 5 F (31,999.29 m <sup>2</sup> )

## (2)病床数 (単位: 床)

病床機能 (病床種別)	新病院	旧病院	増減
高度急性期 (一般)	6	0	6
急性期 (一般)	389	433	▲44
回復期 (一般)	40	34	6
慢性期 (療養)	0	35	▲35
精神	0	20	▲20
感染症	6	6	0
結核	4	8	▲4
合計	445	536	▲91

## (3)駐車場 駐車可能台数

(単位: 台)

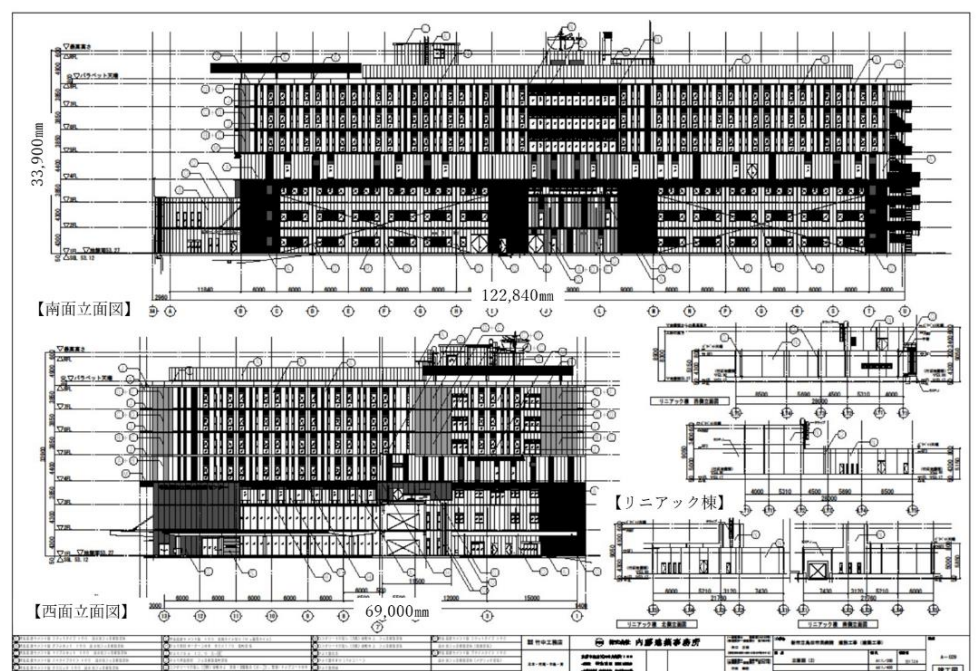
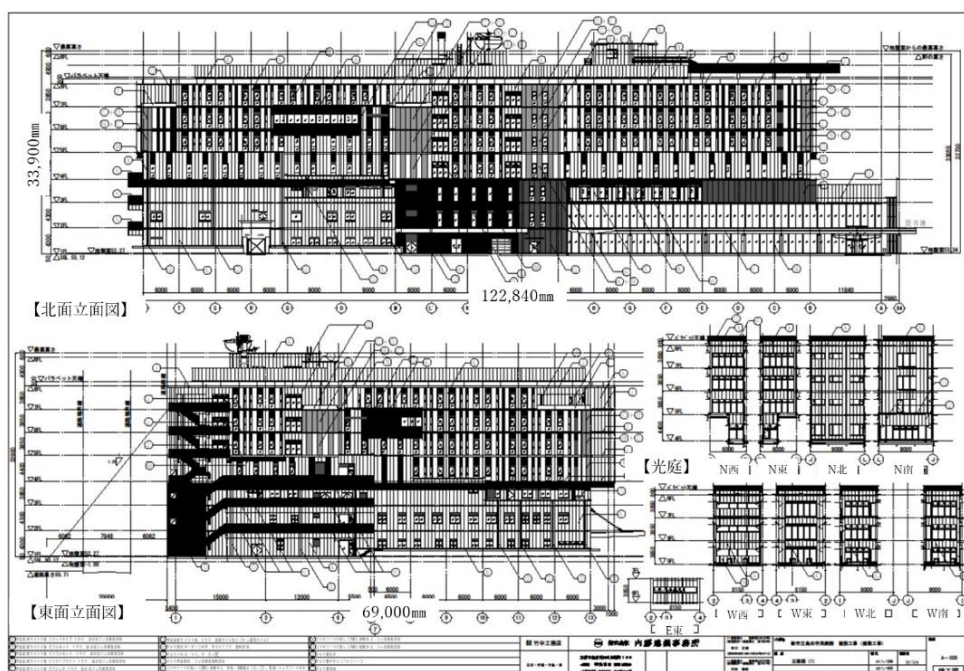
場所	新病院	旧病院	増減	備考
構内 (新駐車場)	333	0	333	駐車場A 54台 (子育て14台、車いす28台、救急12台) 駐車場B 151台、駐車場C 46台 (車いす2台、一般44)、駐車場D 82台
北東北仮設	170	0	170	
北東1	392	392	0	
北東2	35	35	0	
北	155	177	▲22	カルテ庫整備に伴い減
南	41	41	0	
看護学校南	12	12	0	
旧東	0	241	▲241	新病院建設地につき廃止
旧障害者用1	0	10	▲10	新病院建設地につき廃止
旧障害者用2	0	17	▲17	新病院建設地につき廃止
合計	1,138	925	213	

## (4)駐輪場 駐輪可能台数

(単位: 台)

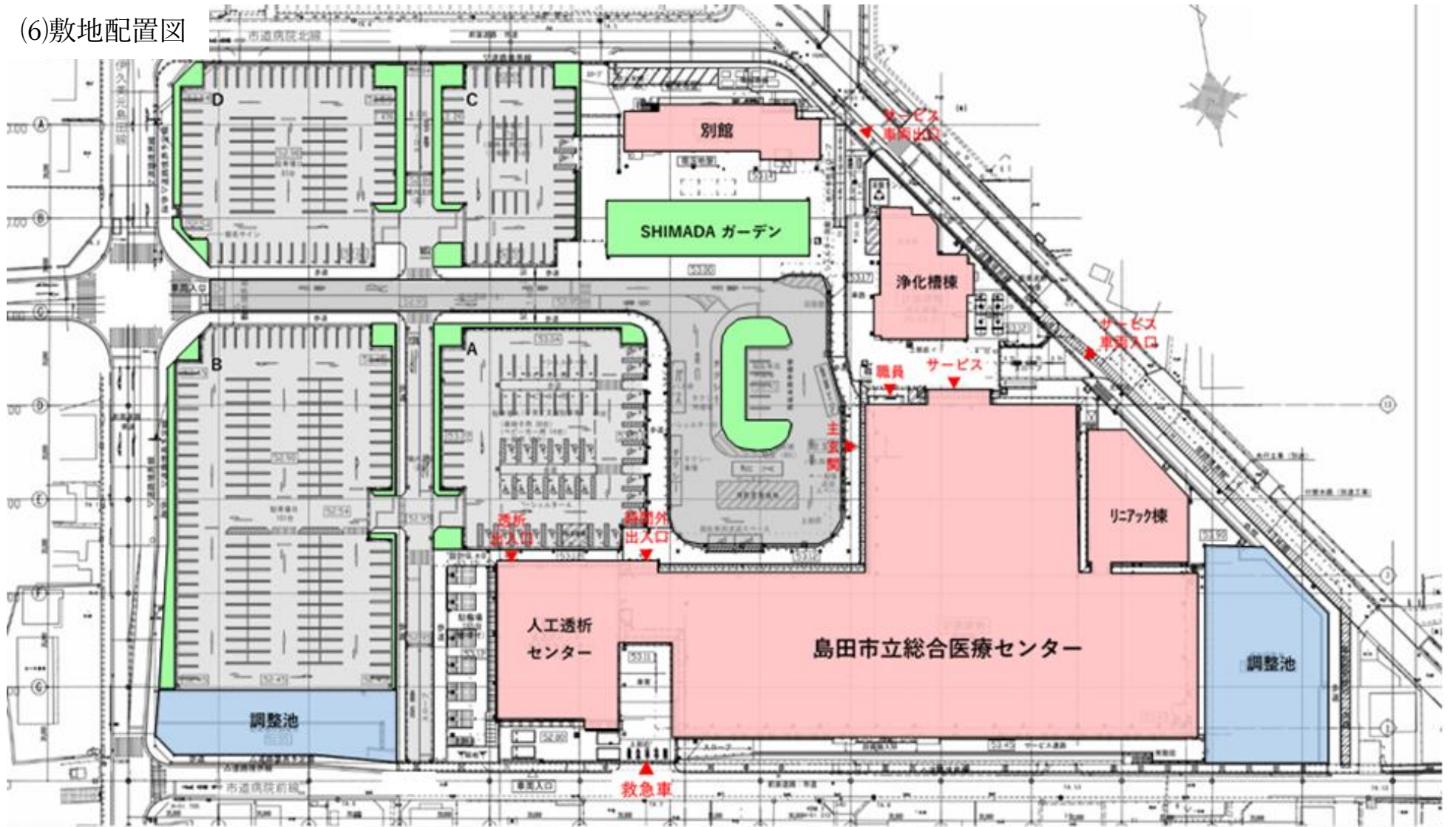
場所	新病院	旧病院	増減	備考
構内 (新駐輪場)	185		185	
旧構内		50	▲50	新病院建設地につき廃止
旧大橋医院		60	▲60	新病院建設地につき廃止
旧西雑庫		60	▲60	新病院建設地につき廃止
合計	185	170	15	

## (5)立面図

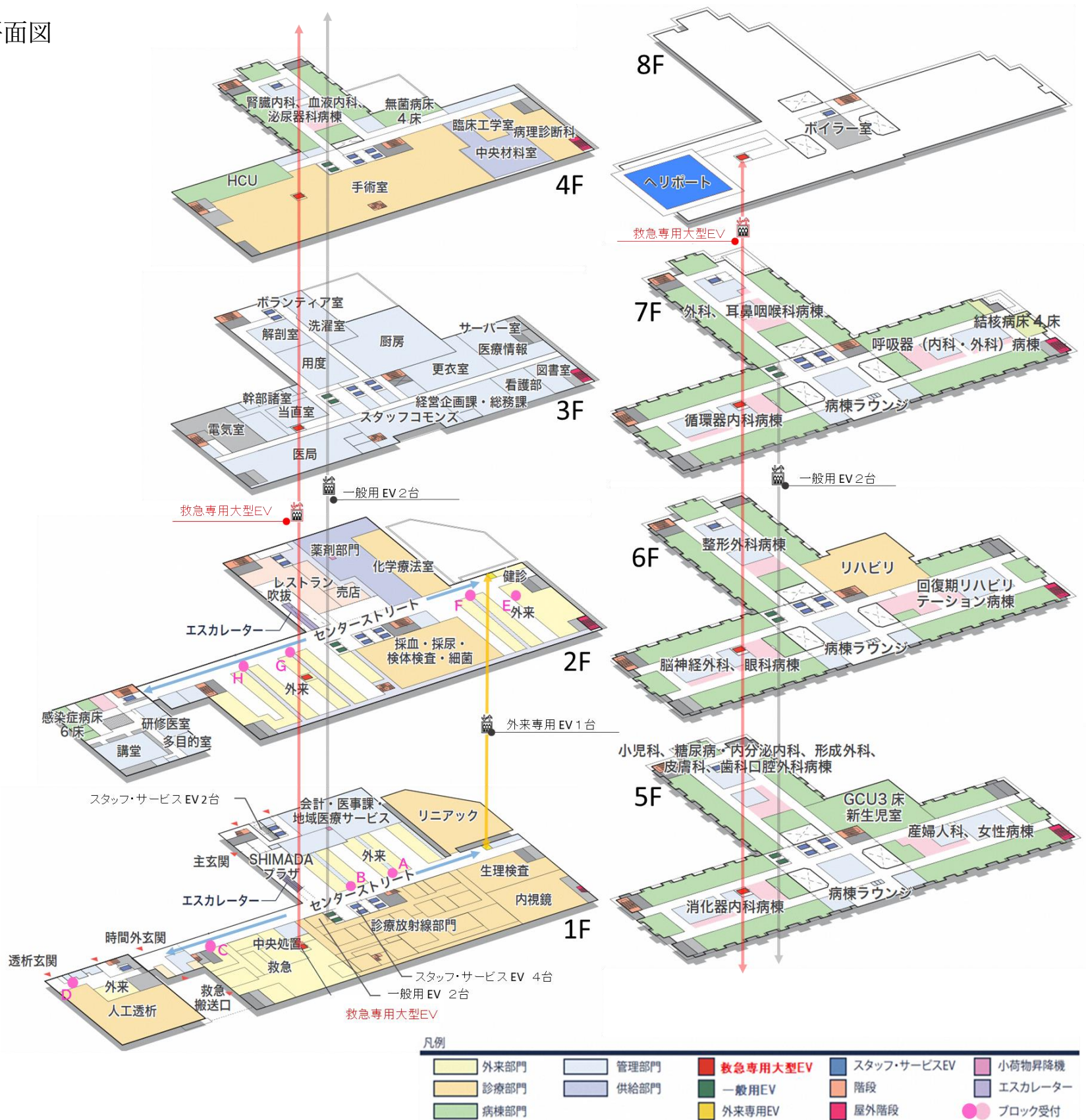




(6)敷地配置図



(7)各階平面図





## 当該事業に係る審査委員会 委員（敬称略、所属・職名は在任当時）

### (1)新病院建設基本計画策定支援業務委託プロポーザル審査委員会（8名）

所属	職名	氏名	備考
病院	事業管理者	服部 隆一	委員長
島田市	副市長	渡辺 学	
病院	院長	村田 敬二	
病院	副院長	青山 武	
病院	副院長	森下 宗自	
島田市	企画部長	牛尾 伸吾	
病院	事務部長	森田 智之	
病院	経営企画課長	落合 昭之	

### (2)基本設計業務委託プロポーザル審査委員会（10名）

所属	職名	氏名	備考
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	非常勤講師（建築家）	岩堀 幸司	有識者
城西大学	経営学部教授	伊関 友伸	有識者
静岡県	経営管理部理事（営繕担当）	渋谷 忠志	有識者
島田市	副市長	高木 繁	
島田市	市長戦略部長	牛尾 伸吾	
島田市	都市基盤部長	安原 正明	
病院	事業管理者	服部 隆一	委員長
病院	院長	村田 敬二	
病院	副院長	青山 武	
病院	事務部長	森田 智之	

### (3)基本設計コンストラクション・マネジメント業務委託プロポーザル審査委員会（8名）

所属	職名	氏名	備考
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	非常勤講師（建築家）	岩堀 幸司	有識者
島田市	副市長	高木 繁	
島田市	理事	牛尾 伸吾	
島田市	都市基盤部長	大村 彰	
病院	事業管理者	服部 隆一	委員長
病院	院長	村田 敬二	
病院	副院長	青山 武	
病院	事務部長	森田 智之	

### (4)建設工事施工者選定審査委員会（6名）

所属	職名	氏名	備考
島田市	副市長	牛尾 伸吾	委員長
静岡県	経営管理部理事（営繕担当）	松永 繁樹	有識者
東洋大学理工学部建築学科	准教授	岡本 和彦	有識者
病院	副院長	青山 武	
島田市	市長戦略部長	鈴木 将未	
病院	事務部長	今村 重則	

## 病院建設推進課及び病院建設課 歴代職員（10名、敬称略、職名は在任当時）

### (1)病院建設推進課

平成 27 年度	平成 28 年	平成 29 年度
課長 大畑和弘	課長 大畑和弘	課長 大畑和弘
係長 宮崎健司	係長 宮崎健司	係長 宮崎健司
主任技師 相田圭祐	主任技師 相田圭祐	主任技師 相田圭祐
主事 小柳津航	主任技師 田村登央	主任技師 田村登央
技師 田村登央（兼務）	主査 鈴木一義	主査 紅林邦宏
	主事 小柳津航	主査 鈴木一義

### (2)病院建設課

平成 30 年度	令和元～2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
課長 大畑英生	課長 大畑英生	課長 宮崎健司	課長 宮崎健司
課長補佐 宮崎健司	課長補佐 宮崎健司	係長 相田圭祐	係長 相田圭祐
係長 相田圭祐	係長 相田圭祐	主査 鈴木一義	主査 鈴木一義
技師 杉本洋亮	技師 杉本洋亮	技術員 望月来希	係長 佐野貴亮（兼務）
主査 紅林邦宏	主査 紅林邦宏	係長 佐野貴亮（兼務）	技師 杉本洋亮（兼務）
主査 鈴木一義	主査 鈴木一義	技師 杉本洋亮（兼務）	
主任技師 佐野貴亮（兼務）	係長 佐野貴亮（兼務）		



工事名 新市立島田市民病院建設工事  
(建築・改修・解体・外構)

着工 平成30年4月 1日

竣工 令和 5年3月17日

施工 (株)竹中工務店

現場代理人 北本 晃裕

監理技術者 村尾 健

設計・監理 (株)内藤建築事務所

管理技術者 河崎 邦生

主任技術者 中村 守宏

担当技術者 中山 大輔

担当技術者 今村 秀夫

C-M 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)

管理技術者 東 利彦(設計段階)

管理技術者 石田 純

総合担当技術者 寺嶋 実

コンサルタント (株)病院システム

主任技術者 田中 一夫(基本計画)

主任技術者 名取 政春(基本計画)

主任技術者 小原 光郷

同じ船に乗り 共に現場を築いた全ての  
技術者に敬意と感謝をこめて

令和5年3月吉日 島田市立総合医療センター職員一同

工事銘板

令和5年3月  
島田市立総合医療センター 事務部病院建設課  
〒427-8502 静岡県島田市野田 1200 番地の 5  
TEL : 0547-35-2111(代)